

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		MUK-むっくー					公表日	2026年2月28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		利用スペースが狭くならないように、無駄のない物品の配置設定をおこなっています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		職員の勤怠管理を柔軟に行い、職員の配置数を確保しています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		学習スペースと運動スペースを区分けし安全に配慮しています。	建物の構造上、完全なバリアフリー化は難しいところです。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		活動後の清掃をおこない、必要な場所の除菌を徹底しています。	経年劣化による壁紙等の傷みがあるので修繕が必要か検討しているところです。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		クールダウンなどで個別の場所の使用を認めています。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		日次ベースのミーティングにて振り返りをおこない必要であれば、目標設定の確認をおこなっています。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		評価表の保護者の意向を職員間で共有し、必要であれば業務改善の提案をおこなっています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		朝礼時のミーティングなどで、グループミーティングをおこない、業務改善に繋げています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%	今後の課題として検討いたします。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		年間研修計画に基づき、各研修を開催しています。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		定期的に支援プログラムを作成し、公表しています。	学習や運動、SST等子どもの特性に応じたプログラムの提供を継続します。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		個々のこどもに対してアセスメントを作成し、個別支援計画書を作成しています。	子どもの課題を的確にとらえ、保護者のニーズにこたえらえる計画書の作成に努めます。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		計画書作成時に職員の意見を集約し、職員間で検討しています。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		計画書の情報を職員間で共有し、適切な支援を行っています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		日々の行動を連絡帳に記載し、いつでも確認できるようにしています。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		子どもの支援に必要な項目を適切に設定して、支援内容を記載しています。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		朝礼時のミーティングにて活動プログラムの確認を行い、必要であれば変更、改善をチームでおこなっています。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		プログラムの内容が固定化しないよう、子どもの発達に応じて、変化させています。			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		個別活動と集団活用を織り交ぜて支援しています。			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		朝礼時のミーティングにて、支援内容の確認をおこない、役割分担の確認を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		朝礼時のミーティングにて、振り返りや反省点の確認をおこない共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		連絡帳に支援記録を記載して、検証できるようにしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		定期的なモニタリングをおこない、必要であれば支援計画の見直しをおこなっています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	100%		日常生活を充実させて自立するための活動、いろんな遊びや体験活動、子どもが自分で考えて参加できる活動などの支援をおこなっています。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		自己選択で「やる」「やらない」など自己決定できる環境を整えています。	発語の少ない子供に対して、意見を吸い上げる方法を考えて実践いたします。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		児童発達支援管理責任者が参画できています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		学校や児童相談所などと連携して支援体制を整えています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		学校と情報共有を適切におこなっています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%		保護者からは情報提供を受けています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		障害福祉サービスから情報提供の依頼があれば対応いたします。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%		研修の機会があれば助言を受けたいと思います。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%		今後の課題として検討いたします。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%		今後の課題として検討いたします。	
保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		連絡帳や送迎時に、子どもの様子などをお話ししています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		保護者からのご要望があれば、今後の課題として検討いたします。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		MUK-むっくーをご利用の際に、規約に基づき説明をおこなっています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		日頃のコミュニケーションから、子どもや家族の意向を確認し、支援計画書を作成しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		計画書の提示と説明を行い、同意を得ています。	
保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		日頃から子育ての悩み等に対する相談に応じて、必要な助言をおこなっています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%		保護者からご要望があれば、検討いたします。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		苦情があった際は、迅速に対応しています。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		Instagramによる日々の活動内容の発信を行っています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		Instagramの顔写真を伏せて掲載しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		情報伝達のための配慮をおこない、意思疎通を行っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100%	今後の課題として検討いたします。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		非常時における対応マニュアルを作成し、想定訓練をおこなっています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		災害発生時の、必要な訓練をおこなっています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		保護者との連携を日常からおこなっており、確認できています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		食物アレルギーの有無や、対応方法などを周知しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		安全管理を考慮した支援をおこなっています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		保護者への安全計画の取り組み内容を周知しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		事故、災害が発生した時は、速やかにヒヤリハット報告書を作成しスタッフ間で情報の共有をおこなっています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		虐待防止研修を定期的におこない、適切な対応を取っています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		100%	突発的な子どもの行動が発生した時に、やむを得ず行動制限をおこなう場合があります。	